

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		交通安全啓発事業		担当課 交通防災課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間 年度～
	施策	交通安全の推進		種別 任意の事務
	基本事業	交通安全意識の向上		市民協働 補助事業
予算科目コード		01-020102-01 補助	根拠法令・条例等	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
増加する交通事故に対して、自治体でも交通事故の発生を抑止するため、関係団体と連携・協力して交通安全思想の普及・啓発活動を行い交通ルールの遵守と正しい交通マナーの向上を図るため実施している。	警察と関係団体による交通安全キャンペーン等の交通安全啓発活動を行い、交通事故発生の抑制につなげる。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市民に対して、交通安全の啓発事業を行うことで、市民の交通安全の意識の高揚と交通マナーの習慣付けを行い交通事故発生の抑制を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
交通ルールやマナーの向上を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
車両の運転者に対しての交通安全の啓発活動は、交通事故発生を抑制する効果がある。近年は、自転車・歩行者の事故が増えているので、これらに対しても重点的に交通安全の啓発活動を行っていく必要がある。	歩行者・自転車の交通マナーの悪さに起因する交通事故が多発しているため、交通安全キャンペーンや講話などの時に自転車・歩行者に対して重点的に交通ルールや運転マナーなどの啓発活動を行い交通安全の意識の高揚を図った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
交通安全キャンペーン延べ実施回数（回）	4.00	4.00	4.00	4.00	4.00
交通安全キャンペーン参加人数（人）	390.00	390.00	350.00	360.00	400.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	交通安全キャンペーンの実施回数や参加人数は停滞しているが、市民の交通安全意識は高まっており、引き続き交通安全思想の普及浸透のため、キャンペーンを実施し成果の向上に取り組んでいく。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持 ☐ 改善・効率化 ☒ 統合 ☐ 廃止・終了	平成29年度に、「交通安全対策事業」と統合する。				

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	398	488	458	4,196	4,196
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	127	117	111	111	0
	一般財源	271	371	347	4,085	4,196
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	231.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	947	0	0
トータルコスト		398	488	1,405	4,196	4,196

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報				
事務事業名		交通指導隊運営事業	担当課	交通防災課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち	計画期間	昭和46年度～
	施策	交通安全の推進	種別	法定事務
	基本事業	交通安全意識の向上	市民協働	その他
予算科目コード		01-020102-03 単独	根拠法令・条例等	守谷市交通指導隊設置及び運営規則

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？

背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
昭和40年代に市内の交通事故防止及び交通道德の高揚を図り，併せて，住民の自主的交通安全活動を推進するため組織された。	交通事故の無い安全なまちづくりのため，交通指導隊は交通安全思想の普及・浸透を図り，併せて市民の自主的交通安全活動を推進するため設置されたもので，隊員（35名以内）は市長が委嘱し，交通安全キャンペーン，街頭での立哨指導，市主催行事における啓発活動を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
自転車・歩行者の交通マナーの向上と交通ルールの遵守が，交通事故発生の抑制につながるため，街頭での交通指導を重点的に行う。	
（参考）基本事業の目指す姿	
交通ルールやマナーの向上を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）

目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
自転車・歩行者の交通マナーの向上と交通ルールの遵守が交通事故発生抑制につながるため、街頭での交通指導を重点的に行う。	交通安全キャンペーンや街頭立哨等とおして、自転車・歩行者に交通指導を行うとともに、交通マナーの向上と交通ルール遵守等の啓発活動を行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
年間出動延人数（人）	372.00	440.00	447.00	450.00	450.00
年間立哨日数（日）	6.00	6.00	5.00	7.00	8.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	年間の立哨回数は減っているが、出動人数は増加しており、年間を通じて充実した活動が実践されているが、今後は立哨する時間やそれに応じた場所の検討を行うことで、さらなる成果の向上を図っていく。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 □ 維持	□ 改善・効率化 ■ 統合 □ 廃止・終了	平成29年度に、「交通安全対策事業」に統合する。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	2,778	2,834	2,908	0	0
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	2,778	2,834	2,908	0	0
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	64.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	262	0	0
トータルコスト		2,778	2,834	3,170	0	0

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		放置自転車対策事業		担当課	交通防災課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間	年度～
	施策	交通安全の推進		種別	法定事務
	基本事業	交通安全意識の向上		市民協働	その他
予算科目コード	01-020102-05 単独		根拠法令・条例等	守谷市自転車等の放置の防止及び自転車駐車場の整備に関する条例	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
つくばエクスプレスの開通により、駅周辺の歩道に駅利用者による放置自転車が増加し、歩行者の通行に支障をきたしたことから開始した。	シルバー人材センターへの業務委託により、駐輪指導や啓発活動を行い放置自転車には警告札を貼付し保管場所に移動することで、駅周辺の歩行者の通行の安全を確保する。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
歩行者の通行の安全を確保し、放置自転車の削減を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
交通ルールやマナーの向上を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
放置自転車対策は、継続的な啓発活動とともに強制的に自転車撤去をすることが必要であるため委託先のシルバー人材センターによる啓発、警告札の貼付、撤去を継続的に実施していく。	シルバー人材センターにより継続的な啓発活動・警告札の貼付、放置自転車の撤去を実施したことで放置自転車が減少してきているので、継続的な活動をしていく。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
移動台数（一時保管場所）（台）	200.00	120.00	38.00	30.00	20.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
■ 向上 □ 横ばい □ 低下	継続的な啓発活動により放置自転車が減り成果が向上している。今後も継続的に啓発，警告札の貼付，撤去を実施し，放置自転車の減少に努める。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
□ 拡大 □ 縮小 ■ 維持	□ 改善・効率化 □ 統合 □ 廃止・終了	継続的な啓発活動により放置自転車が減少しており成果が順調にでているため引き続き事業を行っていく。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	3,260	3,269	3,255	3,310	3,310
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	114	0	0	10	0
	一般財源	3,146	3,269	3,255	3,300	3,310
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	41.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	168	0	0
トータルコスト		3,260	3,269	3,423	3,310	3,310

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		通学補助員事業		担当課	学校教育課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間	昭和46年度～
	施策	交通安全の推進		種別	法定＋任意
	基本事業	交通安全意識の向上		市民協働	その他
予算科目コード		01-100102-02 単独	根拠法令・条例等	学校保健安全法第26条	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
事業開始当時、「緑のおばさん」として親しまれ、以後、交通婦人補導員、さらに現在の通学補助員となった。	市立各小学校の通学路の交通危険箇所（交差点等）に通学補助員を配置し（4箇所、22名、午前7時30分～午前8時30分）、交通誘導を行う。 。年度末に、各学校からの補助員配置に係る報告と補助員の意見取りまとめに基づき、新年度の補助員配置場所や実施方法の調整を行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
登校時の市立小学校の児童を交通事故から守り安全に登校させるとともに、交通ルール、マナーの向上を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
交通ルールやマナーの向上を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
通学補助員との確実な連絡，配置箇所での積極的な交通誘導を行い，交通事故を防ぐ。	通学補助員，学校，学校教育課が連携し，配置箇所での通学補助員の児童への適切な交通誘導と交通安全への声かけにより，交通安全を図った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
配置箇所での登校時児童交通事故発生件数（人身）（件）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
通学補助員配置日数（日）	204.00	202.00	205.00	205.00	205.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	配置箇所での通学補助員の児童への適切な交通誘導と交通安全への声かけにより、交通安全を継続的に図るものだが、新たな住宅や道路整備、児童数増加への対応が課題となっている。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	配置箇所の見直しによる成果向上を引き続き図るとともに、費用を増加させないで事業の成果を向上させていく手段の検討が必要である。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	7,432	7,480	7,421	7,830	7,830
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0
	一般財源	7,432	7,480	7,421	7,830	7,830
正職員人工数（時間数）		0.00	0.00	27.00	0.00	0.00
正職員人件費		0	0	111	0	0
トータルコスト		7,432	7,480	7,532	7,830	7,830

平成28年度 事務事業マネジメントシート

事業の基本情報					
事務事業名		自転車通学用ヘルメット購入補助事業		担当課	学校教育課
総合計画	政策	安全・安心に暮らせるまち		計画期間	昭和59年度～
	施策	交通安全の推進		種別	任意的事務
	基本事業	交通安全意識の向上		市民協働	その他
予算科目コード		01-100301-02 単独	根拠法令・条例等	学校保健安全法	

なぜ、この事業を実施しているか？ 何をどうするための事業か？	
背景（なぜ始めたのか）	内容（何の業務活動をどのような手法で行うか）
生徒を交通事故から守り、交通ルールの遵守と交通事故発生時のダメージ軽減を図る。	自転車通学の生徒が着用する通学用ヘルメットの購入費を一部負担（1/2）して、着用の徹底をする。また、着用の徹底により、交通安全への意識付けを併せて行う。
目的及び期待する効果（誰（何）をどうしたいのか）	
市立中学校の自転車通学生徒の安全確保と交通事故防止への啓発を図る。	
（参考）基本事業の目指す姿	
交通ルールやマナーの向上を目指す。	

事業の課題認識、改善の視点（次年度にどう取り組むか）	
目的達成のための課題（問題点、現状分析、課題設定）	具体的内容とスケジュール
改善内容（課題解決に向けた解決策）	
次年度のコストの方向性（→その理由）	
☐ 増加 ☐ 維持 ☐ 削減	

前年度の評価（課題）を受けて、どのように取り組んだか（今年度の振り返り）	
前年度の評価（課題）	今年度の取組（評価、課題への対応）
ヘルメット購入費補助とヘルメット着用の徹底，交通安全への意識付けを継続する。	ヘルメット購入費補助と学校でのヘルメット着用の徹底，交通安全への意識付けを引き続き行った。

評価（指標の推移、今後の方向性）					
指標名	基準値（H26）	H27年度	H28年度	H29年度	目標値（H33）
通学生徒のヘルメット未着用事故発生（件）	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
成果の動向（→その理由）					
☐ 向上 ☒ 横ばい ☐ 低下	ヘルメット着用は徹底されている。これを維持するために事業を継続する必要がある。				
今後の事業の方向性（→その理由）					
☐ 拡大 ☐ 縮小 ☐ 維持	☒ 改善・効率化 ☐ 統合 ☐ 廃止・終了	歩道などでの自転車併走やふらつき走行，路地での飛び出し等，自転車運転での交通ルールやマナーの指導徹底を図る。			

コストの推移						
項目		H26年度決算	H27年度決算	H28年度決算	H29年度予算	H30年度見込
事業費	計	1,501	1,569	1,569	1,616	1,616
	国・県支出金	0	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0	0
	その他	745	772	788	807	807
	一般財源	756	797	781	809	809
正職員人工数（時間数）		3.00	3.00	3.00	3.00	3.00
正職員人件費		0	0	12	0	0
トータルコスト		1,501	1,569	1,581	1,616	1,616